

— 歴史博物館 昔あそび —

毎月第1日曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居を見ることができます。1日2回。公演終了後にはカタヌキのおまけもあります。各回が始まる前30分間(①13:00～ ②14:00～)に昔のおもちゃで遊べる時間を設けています。けん玉や丸とばしで遊んでから紙芝居をお楽しみください。



場 所：歴史博物館 1階
時 間：①13:30～ ②14:30～ (各回30分程度)



毎月第2土曜日 紋切りあそび・折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様ができあがります。できた紋様をファイルに貼ってお持ち帰りできます♪ 折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以外の魚も…？



毎月第3日曜日 火打ち石体験・お手玉あそび

火打ち石と火打ち金を使った火おこし体験です！ろうそくに火をつけられるかな？その他に、お手玉あそびもやっています。お手玉のいろいろな技を磨いてみよう！



毎月第4土曜日 竹と枝と木の実の工作

竹や枝を切ったりけずったりして、工作してみましょう！なにを作るかは、来てからのお楽しみです♪

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については
下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：歴史博物館 1階 時 間：13:00～15:00

※都合により予告なく内容が変更・中止になる
場合がございます。予めご了承ください。

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30
【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)
【入館】 無料、補助犬同伴可
車いす各館1台あり

【駐車場】 一般車30台
お体の不自由な方等
の車両 各館1台あり
大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の
利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



考古・歴史博物館だより

第74号
発行 令和7年5月



X
(旧Twitter)



Instagram

考古・歴史博物館
公式SNSで情報発信中！

市川考古博物館
〒272-0837
市川市堀之内2-26-1
☎ 047-373-2202

市川歴史博物館
〒272-0837
市川市堀之内2-27-1
☎ 047-373-6351

季節の展示「全力男子」開催中！

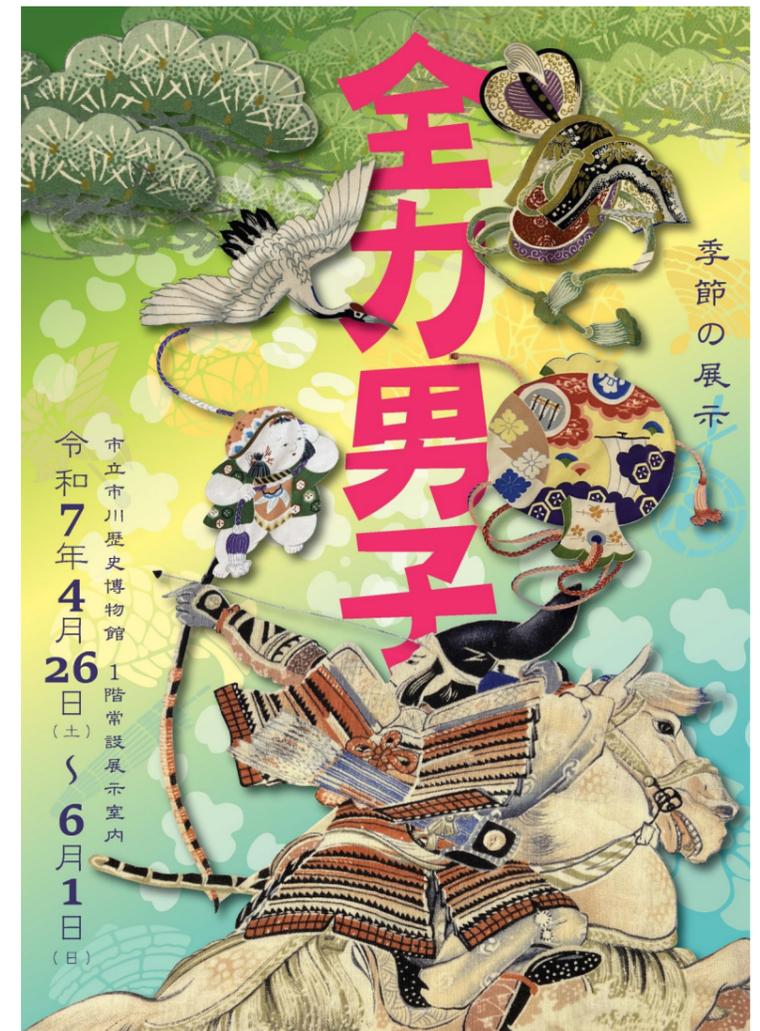
歴史博物館が所蔵する資料を季節にちなんで展示する季節の展示「全力男子」を開催しています。

今回の展示では、市内より寄贈された消しゴム人形やベーゴマ、メンコなど、大人の方が子供の頃に遊んでいた玩具をはじめ、五月人形や節供人形といった人形や男の子の晴れ着なども展示しています。端午の節供にちなんだ展示となっておりますので、ぜひご来館ください。

※内容は都合により変更になることがあります。

期 間：令和7年4月26日(土)
～6月1日(日)

場 所：歴史博物館1階常設展示室



【当館利用者の皆様へのお願い】

体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

いちかわの縄文貝塚(7) 縄文時代の装身具(その3)

前 回、曾谷貝塚の小堅穴(貯蔵穴)から出土した縄文時代後期初頭(約4000年前)のイタボガキ製の貝輪未製品と未加工の貝殻について述べたが、今回はその続編である。

周辺の遺跡に着目すると、曾谷貝塚の南方約500メートルにある平作貝塚(向台東遺跡・曾谷南遺跡)で縄文時代中期(約4500年前)の堅穴建物跡の貝層中からイタボガキの貝殻が多量に出土しているし、市内の北方町4丁目にある大柏川第一調節池からイタボガキの貝殻が貝合わせ(合弁)の状態(下図参照)で発見されていることから、付近の海域にイタボガキが生息していたことは疑いない。

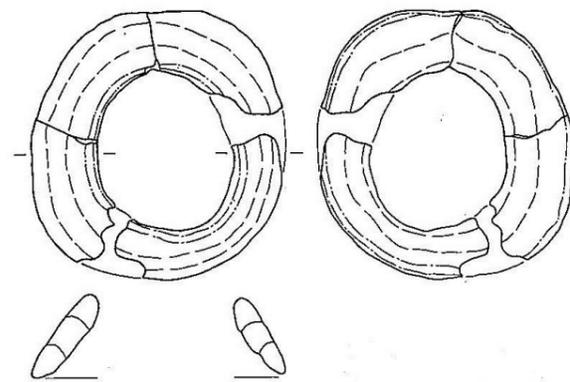
曾谷貝塚の小堅穴(貯蔵穴)から出土したイタボガキは、半数近くが左右揃った貝合わせ(合弁)の状態に復元できたことから、生きていたかもしくは死後間もない時期に多量に採取されたと考えられる。貝輪を装着する人物が限定的であり、個人が装着する貝輪が複数でなければ、貝輪の製作は漂着する少数のイタボガキの貝殻だけで十分である。多量にイタボガキの貝殻を採取することができたにもかかわらず、交換用の貝輪を含めて、

自分たちが必要とする貝輪の数量を確保できた段階で、残りの貝殻を廃棄したようである。

千葉県内では、縄文時代後期(約4000～3000年前)に入るとベンケイガイ製の貝輪が多くなり、イタボガキ製の貝輪が急減する傾向にあるが、市川市域ではベンケイガイやフネガイ科の貝殻を用いた貝輪と共存しながら、後期に入ってもイタボガキ製の貝輪が製作・使用されており、貝輪製作に地域性があることを示している。

これまでの研究成果によると、関東地方北部に分布する貝輪形土製品の一部(下図参照)にイタボガキ製の貝輪に似て平面形が円形に近く、貝輪の幅が広い事例が認められること、それらが中期後葉から後期前葉にかけて製作されたことなどがわかってきた。とすれば、曾谷貝塚で製作された後期初頭(約4000年前)のイタボガキ製の貝輪の一部が下総台地北西部の分水界を経由し、関東地方北部に流通していたとしても、何ら不思議なことではなく、貝輪を模倣した貝輪型土製品のモデルになった可能性が高いといえる。(つづく)

(考古博物館学芸員 領塚 正浩)



【図2】 栃木県寺野東遺跡出土の貝輪形土製品
※『寺野東遺跡V』(1997)より転載



【図1】 大柏川第一調節池出土のイタボガキ(合弁)

古写真絵はがきにみる市川市域⑩ —株式会社 東京精鍛工所 北ヨリ見タル全景—

今 回紹介する絵葉書は、東京精鍛工所という会社が作成した絵葉書です。この会社は大正9年(1920)に、京都市で石川工業所という名称で設立され銅瓦板を製造したのがはじまりです。同13年(1924)に市川町に移転し東京銅瓦板製造所という名称に改称し、菊富士銅板という品質の良い銅板の大量生産に成功し、中山法華経寺、亀戸天神社などの神社仏閣や、東京震災記念堂、大倉男爵邸など多くの建築物で使用されました。

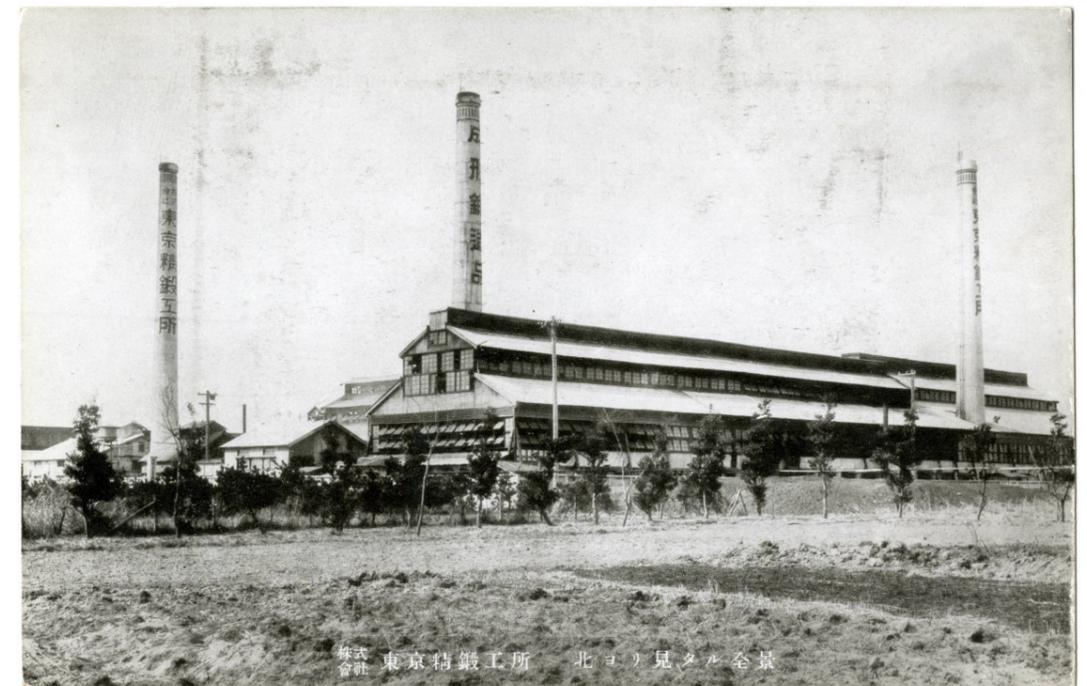
昭和8年(1933)には自動車部品の製造に着手し、航空機や艦船の部品の製造も行うようになります。翌9年には合資会社東京精鍛工所となり、昭和11年(1936)に株式会社東京精鍛工所と改称しました。

絵葉書自体は3枚1組のもので、何れも株式会社東京精鍛工所と記され、それぞれ、「北ヨリ見タル全景」、「玄関」、「各受付」と記されております。従って、この絵葉書が発行さ

れたのは昭和11年以降であり、株式会社となった記念に作られたものであることが考えられます。掲載した写真には工場の建物や煙突が見られ、左側の煙突には、株式会社東京精鍛工所と記されています。ちなみに、昭和9年(1934)の時点では、工員数50人、第一鍛工場、第二鍛工場、仕上工場、変電所などの設備がありました。

この場所は現在の市立大洲小学校の辺りで、工場の前には土地が広がっていたことがわかります。大正時代後半頃から総武線市川駅の線路より南側の地域は、土地が平たんで東京に近い場所であったということなどの理由で工場が進出するようになり市街化がはじまります。このような背景の下、東京精鍛工所は設立されたといえます。

(歴史博物館学芸員 小野 英夫)



(株) 東京精鍛工所の全景を写した絵葉書